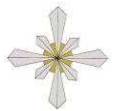


向陽中学校だより<第11号>



# 走れ向陽!

～志のある  
夢の実現めざして～

<学校目標> 「知性」「品格」「至誠」「体力」を身につけた活力ある生徒  
<重点目標> 誰とでも対話し、目標達成に向け創意工夫してやり抜く

平成30年10月15日(月)  
<発行者> 校長 箭内仁史  
〒976-0037  
相馬市中野字桜町76  
Tel.35-2348 Fax35-2849

ちょっと前の猛暑がうそのようにめっきり朝・夕の冷え込みが増し、秋らしい気配が感じられるようになりました。いよいよ今週から、生徒たちは本格的に合唱コンクールの練習や向陽祭の準備にとりかかります。保護者の皆様には、PTA三役会や拡大運営委員会で向陽祭のバザーや喫茶食堂の準備計画のため、夜遅くまで協議していただいております。心より感謝申し上げます。

また、5日には特設女子駅伝部が、福島で行われた県駅伝大会で相双地区の代表として、チーム一丸となって精一杯の走りを見せてくれました。ほとんどの生徒が自己記録を更新するという、精一杯の走り達成感に満ちた表情を見ることができました。ご協力、声援ありがとうございました。

## 後期生徒会スタート

10日(水)に後期生徒会総会を実施しました。校長あいさつの一部を紹介します。『生徒会スローガンスローガンは「向陽のWA～「ひとり」は「みんな」のために～」です。一人は小さな力でも、一人一人が集まれば大きな力が生まれます。前期生徒会では、向陽中学校全体が輪になって、挨拶運動や目安箱の活用、じめ根絶に向けて、携帯・スマホの使い方について、取り組みました。心より拍手を送ります。

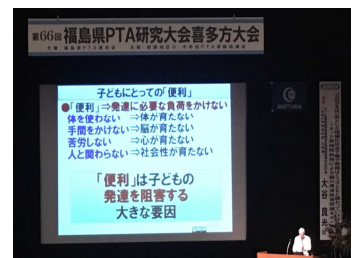


さて、連携・協力することは大事ですが、いっしょに動けばそれで良いのでしょうか? 誰かの後に黙ってついていけばそれで良いのでしょうか? ノーベル医学生理学賞を受賞した本庶佑(ほんじょ・たすく)先生は、記者会見で、「新しい発見は、問題を教科書の解き方だけではなく、それ以外の解き方を別の観点から導き出すことや当たり前前に思っている事象に目を向け疑問に思い、自ら解き明かすことで生まれる」という趣旨の発言をしました。いつも全体を見て、今またはこれから何をすれば良いのかを考えること、人の意見を尊重し、対話を重ね、より良い在り方を考え、一つの結論を導くことが大事になってきます。決まったことについては全力で成し遂げるよう、他と協働して最後まで努力するという「気力」が必要です。

今回も「何のために活動をするのか。」それに対して「あなたは どう思いますか。(逆質問)」 「更にこんなことをしたらどうか。」等のルールに従い、建設的な意見が数多く出され嬉しく思いました。自分たちの生活の向上を目指し、進歩する生徒会に大いに期待しています。

## 第66回福島県PTA研究大会喜多方大会

14日(日)に福島県PTA研究大会喜多方大会(全体会:喜多方プラザ)が開催されました。分科会ではテーマ「地域の連携を強め、子どもの成長を支えるPTA活動のあり方とは」に基づき、学校とPTA・地域が話し合う機会を多く持ち、学校・地域の行事に取り組む実践(坂下中学校・秋田平和中学校)が紹介され、子どもたちに周囲から認められているという自己有用感や自己肯定感を持たせることの大切さを確認しました。



記念講演では「SNSをはじめとした情報化社会で親や教師はどう子どもと関わっていけばいいのか」について、ネット健康問題啓発者養成全国連絡協議会代表「大谷 良光」氏の講演がありました。スマホのネット使用、特にLINEの長時間利用による脳や眼に対する障害(大人も含め、学力や言語能力の低下等)の実態が長年のデータに基づいて報告されました。疑似体験ができるスマホは便利であることからの危険性を示されました。

- ▼ 体を使わない ⇒体が育たない
- ▼ 手間をかけない ⇒脳が育たない
- ▼ 苦労しない ⇒心が育たない
- ▼ 人と関わらない ⇒社会性が育たない

「便利」は子どもの発達を阻害する  
大きな要因

最後に、スマホは必要がなければ基本持たせる必要はなく、子ども用ケータイで機能は十分である。スマホは必要なことに必要な分だけ使う道具としてとらえ、ルールが守られるようならば必要な機能を増やしていくことを力説されました。